

## 山形市PTA連合会会報「じゅひょう」掲載

### 「良樹細根・大樹深根」ということ

— 子ども達の良さを見つけ、伝え合う —

山形市PTA連合会並びに各単位PTA、そして、会員の保護者の皆様には、日頃より山形市の教育にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、学校内外において、子ども達の健全育成や環境整備にご尽力され本市教育の向上・発展にご貢献いただいていることについても心より感謝を申し上げます。さらに、佐藤博之会長はじめ、各小中学校のPTA会長の皆様や役員の皆様方には、学校、家庭、地域社会の連携の要として多大なるご活躍をいただいていることに対しても、深甚なる敬意を表します。

さて、「良樹細根・大樹深根」という言葉があります。細やかでしっかりした根が張っている木は枝葉もよく茂り、また、根が地中深くまで張っている木は、その分、大樹・大木となるという意味のようです。

とかく私達は、地上に伸びた枝ぶりや葉の茂り具合に目を奪われやすいものです。でも、一番肝心なことは目に付かない地中の根っこの状態なのかもしれません。人についても同じようなことが言えます。すぐに目に付く言動・行動は大変気掛かりなものですが、その言動・行動を支えているものは普段余り目に付かない、言わば地中に潜んでいるような、その人の資質や能力なのです。子ども達を大樹のように大きく育てるために、様々な資質や能力の育成が大切です。

しかし、良樹・大樹になるためには、育てなければならない資質や能力はたくさんあります。だからと言って、子ども達に性急な「無いものねだり」を要求するだけでは、子どもの反発を買ったり、子どもが戸惑ったりするばかりです。最初から「無いもの」だけを求めるのではなく、まずは、「有るもの」にこだわり、それを生かしていくことが何よりも大事なことだと思います。子ども達はみんなキラリと光る、その子なりの良さを持っています。でも、自分でも気付いていない良さ、未発見の埋もれている良さもあるはずです。

親や教師をはじめ周りにいる大人の役割は、子ども達にしっかりと向き合い、子ども達の「良いところ」を見つけ、「伝えていくこと」です。子ども達は自分の良さをしっかりと自覚することで適切な自尊感情も培われます。

PTA活動の中でも、互いに子ども達の良さを見つけ合い、伝え合えることができれば、すばらしいことですね。市P連の活動や各単位PTAの活動を仕組むときに、『子ども達の

良さを見つけ、伝え合う』という視点を常に持っていただければ幸いに存じます。その子  
なりの「良いところ」を見つけ、それをさらに伸ばすことによって、それとは違った資質や  
能力も刺激され、きっと相乗効果が発揮されることと思います。

山形市PTA連合会の皆様と共に、家庭と学校、地域、様々な関係機関との連携・協力  
のもと、子ども達の根っこをしっかりとものにしていきたいものです。そのために、子  
ども達の良さを見つけ、それを伝え合うことに努力してまいりましょう。皆様と共に子  
ども達が、良樹・大樹となるよう、子ども達の根っこを一緒に育ていきたいものです。